

○事業進捗等中間ヒアリング資料

事業通番 6 学校教育の充実を図るための支援体制の整備 特別支援教育の充実と生徒指導の充実

1. 事業進捗、課題等（内部評価：平成26年10月）

○進捗度 4：予定通り進行中

- ・5月末に第1回野洲市特別支援教育推進協議会を開催し、親の会5団体の代表を招き、現状認識、施策への要望について意見を聴取した。
- ・巡回相談員の各校園への派遣は予定通り実施している。専門家チームの派遣については、野洲幼稚園と中主小学校を予定している。

1. 事業進捗、課題等（内部評価：平成26年10月）

- ・滋賀大学教育学部と連携し、市内の小学1年生に「ひらがなチェック」を1学期末に悉皆実施した。これから中学1年生に英語・アルファベットチェックも予定している。
- ・不登校生徒や学校不適應の子どもに対してベースシートを用いた効果的なケース会議を実施し、場合によっては、SSWが直接支援に関わった。
- ・教員の資質向上を図るための研修として適応指導や教育相談の講座を開設した。
- ・各学校では、学校いじめ防止基本方針を策定し、いじめ問題対策会議を年1回以上実施する予定である。
- ・各学校では、いじめの早期発見や教育相談を充実させるためのいじめアンケートを実施する予定である。
- ・カウンセラーを小学校に派遣し、教育相談(学校訪問)モデル事業を平成26年9月から週1回実施して、子どもの心の悩みや不安について、教育相談を行っている。

2. 前回委員会での意見等

- ・本市の取り組みのひとつである巡回相談員、専門家チームの派遣事業の成果はどの程度現場にフィードバックされているのか。また、その成果は把握できているのか。
- ・「心のオアシス相談員」の人員が今年度から減少しているが、影響はどうか。
- ・「心のオアシス相談員」による成果の事例が紹介されているが、学校の状況や市の取り組みを市民は認知しているか。
- ・「心のオアシス相談」の59%が不登校となっているが、その中身の分析、実態の把握が必要。国の基準を超えて、野洲市独自の基準を設けて対応してはどうか。
- ・学校生活への適応できない「小1プロブレム」への対応は重要。「小1サポーター」など小学校1年生の教育に支援するポイントを定めてはどうか。

3. 今後の取り組み、事業の方向性

○特別支援教育

- ・特別支援教育推進協議会との連携、各校園への巡回相談員・専門家チームの派遣は成果が出ており、取り組みを継続する。
- ・滋賀大学教育学部と共同で行っている小学校1年生への「ひらがなチェック」の結果は学級担任のひらがな指導に活用している。今後、中学1年生に英語・アルファベットチェックも予定している。

○不登校・いじめ対策

- ・今年度、市から各学校へ配置している「オアシス相談員・支援員」の人員は減って(56名→37名)いるものの、研修会の回数を増やすなど、より一層学校不適應の子どもたちにきめ細かい対応が図られるよう相談員・支援員の質の向上を目指していく。
- ・学校だけで抱えきれない重篤な不登校(虐待含む)ケースが増え、今まで以上に福祉課や家庭児童室等との連携が必要となるため、スクールソーシャルワーカーの拡充を目指していく。

3. 今後の取り組み、事業の方向性

○不登校・いじめ対策

・適応指導教室の充実

学校連携による個々の課題解決、進路保障に向けた適切な支援

・こころの教育相談の充実

教育相談(学校訪問)モデル事業を平成26年9月から週1回実施

教育相談の事業内容について、市民への啓発や周知

不登校等にある児童生徒の早期発見・早期支援を図るため、人員の配置等体制の充実

事業通番 29 災害時要援護者の把握と対象者情報の共有化

1. 事業進捗、課題等（内部評価：平成26年10月）

○進捗度 3：着手したが予定より遅延

・今年度、新たに行畑自治会が本登録制度への取り組みを開始し、現在、取り組んでいるのは6自治会となった。

・篠原学区等、独自で要援護者の把握に取り組む自治会があるものの、まだまだ取り組みの広がりが少ないので、自治会独自の取組事例も紹介しながら、本登録制度の啓発が必要である。

・本登録制度の対象となる高齢者世帯について、真に避難を必要とする年齢を絞り込むため、要綱等の改正を行った。（65歳以上を75歳以上に改正）

・災害対策基本法に基づく「関係機関への要援護者名簿の提供」については、消防機関への提供をめざし、作業を進めることとした。

2. 前回委員会での意見等

- ・この事業の実施を知らない市民が多い。市の事業としては市民に知られていないことは問題。事業の周知、市民へのアピールなど市の事業の透明化が必要。
- ・災害時要援護者台帳の登録対象人数7,033人に対し、実際の登録者は105人と登録率が低い。市ではどう捉えているか。
- ・災害発生時の市の災害対応部署との連携はできているか。
- ・災害発生時を想定すると、自治会等と共有する情報のレベル(深さ)は現状で十分か。
- ・今後は昼間の災害での共働き世帯の子どもへの対応、原子力防災の観点での子どもへの対応も検討が必要。
- ・環境の変化に敏感な障がいのある方などへの配慮も必要。
- ・共助が円滑に機能するためには、普段の地域でのつながりが重要。地域と住民の関連を高める仕掛けづくりが必要。
- ・新たな制度、取り組みには様々な壁がある。まずは自治会と民生委員児童委員の連携意識の向上が必要。

3. 今後の取り組み、事業の方向性

- ・地域での災害時要援護者登録の取り組みを推進するため、民生委員児童委員協議会及び自治連合会役員会で、再度、事業の概要を説明を行う。必要に応じて制度の詳細説明を学区単位または自治会単位で個別に実施する。
- ・要援護者の把握を独自に取り組んでいる自治会に対し、市の登録制度に取り組むことを勧奨し、独自取り組みの中で避難支援個別計画を作成すること、避難支援のあり方について自主防災組織の中で位置づけることを啓発する。
- ・既存の要援護者関係団体に制度説明を行い、個人登録を進める。
- ・災害対策基本法に基づく要援護者名簿の提供は、平成27年4月の情報提供開始に向け、平成26年度中に湖南広域消防局と協定が締結できるよう事務を進める。

事業通番 36 商工業振興指針具現化事業

1. 事業進捗、課題等（内部評価：平成26年10月）

○進捗度 4：予定通り進行中

・指針具現化事業Aグループ（地域資源でおもてなし発信）では、仕組みづくりをしノウハウを主体に継承したが、「野洲まちバル」はそれを承継すべき主体の発掘・育成が課題である。

・指針具現化事業Bグループ（自然の魅力を活用）では、関係団体と連携して主に次の6つの取り組みを行った。

①クラブツーリズム（株）により、催行されたツアーのランチ・お土産どころとして「びわ湖鮎家の郷」に送客される仕組みを構築した。

②旅行社11社に「家棟川エコ遊覧船」・「ビワコマイアミランド」を提案した。

③国土交通省が行う「ミズベリング・プロジェクト」に応募し、情報発信を行った。

事業通番 36 商工業振興指針具現化事業

④ボランティア観光ガイド協会を主体として、湖魚料理を昼食にしたハイキングを企画・実施した。

⑤家棟川エコ遊覧船事務局と協働して、『びわ湖岸の散策マップ』を作成中である。

⑥「びわ湖周辺の賑わいづくり」についてビワコマイアミランドと協議し、連携した情報発信の仕組みづくりや有名芸能人へのアプローチを進めていくことになった。

・指針具現化事業Cグループ（ビジネスチャンスの発掘）では、助成事業を活用したシンポジウム・ビジネスマッチング会の実施計画書・収支予算・実行委員会設置要綱の原案を作成した。

2. 前回委員会での意見等

- ・市内商工業の振興、地域活性化の事業には継続性のある取り組み、長期的な視点が必要。
- ・取り組みが地場産業にフォーカスされているが、もっとグローバルな広い視点での取り組みが必要。元気な野洲市にするため、企業誘致も含んだ市の将来的な商工業の方向性や地域との融合、21世紀型の新しい野洲市の地場産業育成の取り組みも検討が必要。
- ・それぞれの事業は良い取り組みだが、市民の認知度が低い。市内、市外への積極的な周知が必要。
- ・商工のイベントでは市が情報を発信し、地域が動く形態が望ましい。「バル」も期間の拡大やシリーズ化による継続実施が望ましい。
- ・「バル」は利用期間が限定される。期間に制限されない取り組み(ランチパスポートなど)検討も必要。
- ・事業計画当初にSWOT分析を行っているが、次のステップを有効なものとするためには、事業開始後もこの分析に対する時点修正など継続した評価が必要。

3. 今後の取り組み、事業の方向性

・平成26年度から取り組みを開始した指針具現化事業Bグループ（自然の魅力を活用）は、近隣市・（公社）びわこビジュアルビューロー・旅行社・国土交通省・ビワコマイアミランド・NPO法人家棟川流域観光船事務局・観光物産協会などの関係者との連携を重視した取り組みを進め、びわ湖周辺への誘客の仕組み・実績をつくること出来た。

今後は、独自に活発な事業展開をしている団体（NPO法人家棟川流域観光船事務局など）とより密接に協働する仕組みづくりとサポートの強化を行うことが課題である。

・平成27年度から取り組みを開始する予定の指針具現化事業Cグループ（ビジネスチャンスの発掘）は、予定より早く取り組みを始めることができた。シンポジウム・ビジネスマッチング会の実施計画書・収支予算・主体・今後のスケジュールなどの原案が出来上がり、具体的な関係者との協議・事務を進める準備が整った。